

東海地区3県の日本政策金融公庫と 信用保証協会との協議会(交流会)を開催

TKC中部会 中小企業支援委員会委員長 中根研一

三者協議会(交流会)に53名が参加

TKC中部会は、2024年5月10日、TKC名古屋研修センターにて日本政策金融公庫、愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市の岐阜市信用保証協会との協議会(交流会)を開催しました。参加者は53名で大規模な開催となりました。

冒頭、村瀬潔中部会会長が、中部会にとってこの三者協議会の開催は、個人、法人の区別なく我々が関与するお客様の資金繰り支援のための身近な相談相手としていつも頼りにさせていただいている旨の感謝の言葉を述べられるとともに、中小企業支援を共に支援する団体として非常に重要な機会であるため、そのベクトルを再確認する場であると言及されました。今回のように中部エリアの中部会、日本政策金融公庫、信用保証協会が一堂に会する協議会もさることながら、中部会と



して三者の連携が保たれるように、委員会と各SCGセンターが窓口となって行職員勉強会やトップ対談の開催をするということが良い風土として根付いています。

中小企業支援へ向けて一層の協力を確認

協議会の本編は、まず、それぞれの参加者から現在の取組と今後の展開などをお話いただきました。

日本政策金融公庫国民生活事業本部東海地区統括室硯見仁様から日本政策金融公庫の取り組みについて発表がありました。新型コロナウイルス対策資本金劣後ローンの概要・通常融資との違い・融資事例について説明をいただきました。決算書上借入は負債に計上されるが金融機関の資産査定上自己資本とみなすこと、返済は一括償還返済となるため借入期間は利息のみの負担になること、通常の融資制度より資金ショートがしにくい利点についてご説明をいただきました。

次に、創業支援について支援体制の案内がありました。公庫と取引歴のある企業全体の3割が株式公開をしている。創業支援融資も対象者拡大をしており、8割のお客様はネットからのダイレクト取

出席者（敬称略）

■日本政策金融公庫

国民生活事業本部 東海地区統轄
名古屋中支店国民生活事業 事業統轄
熱田支店国民生活事業 事業統轄
豊橋支店国民生活事業 事業統轄
一宮支店国民生活事業 事業統轄
岡崎支店国民生活事業 事業統轄
岐阜支店国民生活事業 事業統轄
多治見支店国民生活事業 事業統轄
津支店国民生活事業 事業統轄
四日市支店国民生活事業 事業統轄
伊勢支店国民生活事業 事業統轄
国民生活事業本部 東海地区統轄室長
国民生活事業本部 東海地区統轄室

青野浩之
高坂英樹
成島高道
千田大貴
仲西弘明
今成 潔人
纈纈和
林 弘二
浅沼靖司
秦 治卓
加藤 豪仁
石原 豪仁
硯見 仁

■愛知県信用保証協会

経営支援部 部長
経営支援部地域連携課 副長

村松俊昭
大野耕嗣

■岐阜県信用保証協会

保証業務部 部長
企画部 部長

佐藤昭仁
川端健一

■三重県信用保証協会

保証部 副部長
経営支援部 経営支援課 課長

奥野 洋
伊藤 貴史

■名古屋市信用保証協会

経営支援部 部長
経営支援部 支援連携課 課長

服部 幸喜
加藤 憲昭

■岐阜市信用保証協会

企画情報課 課長
経営支援課 審議監
経営支援課 経営サポート室長兼推進役

鷺崎正純
西村志穂
越川健士

引が主流となっている。また契約書も電子契約が主流になっており東海地区では来年1月に導入予定で収入印紙など不要になるそうです。小規模事業者が取引先を中心となるが、TKC会員の協力が不可欠であるとお話をいただきました。

その後、愛知県信用保証協会経営支援部部長大野耕嗣様から令和6年度経営計画の発表、保証料の上乗せという形になるが経営者保証の解除を進めていること、岐阜県信用保証協会保証業務部部长佐藤昭仁様からポストコロナサポート室を創設し経営者のヒアリングをしてお返ししていること、令和6年5月・6月に返済開始が集中しており、3年据え置きとの関係、与先の返済が集中していることの内、

続いて、三重県信用保証協会経営支援課長伊藤貴史様から村瀬会長と三重県保証協会会長とのトップ対談、平井基也会員・梶有香里会員と若手職員との勉強会の実施報告をいただきました。

最後に、中部会としての取組については、ポストコロナ事業の申請結果と3月にピークを迎えた伴走支援を確実に実行して頂くための会員への周知活動や、経営者保証ガイドラインの三要件に重要となるのが書面添付制度であると考えていることをご紹介させていただきました。

「顔の見える関係」の構築が重要

参加したメンバーがそれぞれの立場において、金融機関と中部会がタッグを組

み、そして協力することによって初めて顧問先である中小企業を本当の意味で支援が出来るかと改めて感じた良い機会になりました。

そして、私の所属する豊橋支部では、

コロナを境に開催がされていなかった日本政策金融公庫豊橋支店との交流会の企画が決まりました。中小企業への支援は、いかにスピード感をもって行えるかが重要だということを考えると「顔の見える関係」の構築は双方にとってなくてはならない場であると感じました。協議会を終え懇親会の席では、コロナを境に開催がされていなかった日本政策金融公庫豊橋支店との情報交換会の企画について早々に進めることが決まっています。地元での開催は、窓口となる職員さんたちにはTKC会計人の取組みを直にお伝えすると共に、我々会員も資金繰り相談の強いパートナーを得ることが出来る機会であり期待をしているところです。

今回の三者協議会を通じて中小企業への支援は、いかにスピード感をもって行えるかが重要だということを改めて再認識し、顔の見える関係構築は三者にとつてなくてはならないと認識する機会となりました。